

社会医療法人慈生会 等潤病院

等潤メディカルプラザ病院・等潤メディケア事業部・介護老人保健施設イルアカーサ・法人事務局

慈生会だより

2026 Summer
VOL. 56
ご自由におとりください

Jiseikai public health care corporation since 1981



特集

等潤が支える「その後」

～回復の先にある生活まで～

地域と共に生きる慈しみのトータルヘルスケア



© Yamyuki Taniguchi

花菖蒲（ハナショウブ）は、初夏に見頃を迎えるアヤメ科の植物です。
花の色は、白、桃、紫、青、黄など多数あり、数千を超える品種があります。
さまざまな花菖蒲が咲き競う様子は、初夏の楽しみの一つです。

撮影：谷口泰之（等潤病院副院長・等潤メディケア診療所所長）

目次

回復期リハビリで、もう一度「自分らしい暮らし」へ。

地域に寄り添う慈生会の取り組みを、
特集・医療記事・現場紹介を通してお届けします。

FEATURE

等潤が支える「その後」 ～回復の先にある生活まで～

回復期病棟におけるリハビリテーションを特集します。多職種が連携し、退院後の在宅復帰を見据えて一人一人を支える取り組みの実際を紹介します。

よむ

- 巻頭言 慈生会の「今」を伝える 3
西 直人(等潤病院副院長・老健イルアカーサ管理者)
- 特集 等潤が支える「その後」 4
- 症状・症例ガイド PICK UP! 心不全 6
伊藤 祐輔(等潤病院 一般内科・循環器内科)
- 理事長コラム どくとるまーしいの健康のおはなしvol.12 2
伊藤 雅史(社会医療法人慈生会理事長・等潤病院院長)

しる

- 医師紹介 Jiseikai Doctors' File 8
- 栄養科連載 管理栄養士が教える! 健康食生活のススメ 8
- リハビリテーション部連載 等潤リハビリテーション体操 10

つながる

- フォトギャラリー 慈生会式介護 vol.4 7
- 部署紹介 こんにちは、医事課です! 9
- ホームページ最新記事 NEWS 9
- 編集後記 10
- スタッフ紹介 慈生会の現場人(ゲンバビト) 11

COLUMN

理事長コラム 「麻しん(はしか) なぜ今流行? 対策は?」

どくとるまーしいの
健康のおはなし vol.12



伊藤 雅史
社会医療法人慈生会理事長
等潤病院院長

公式Instagramから
記事が読めます



今号の見どころ

- 回復期のリハビリを特集
慈生会の回復期病棟の役割と在宅復帰や生活を支える体制を紹介します。
- 疾患・健康情報が充実
心不全の解説や健康情報など、役立つ医療情報をお届けします。
- 現場の“人と想い”を紹介
スタッフや部署の取り組みを通して、慈生会の「今」をお伝えします。

慈生会の「今」を伝える

巻頭言

等潤病院の回復期リハビリテーション病棟は、身体機能の回復だけでなく、高次脳機能障害への対応や情報提供を通じて、患者様の生活再建を支える場として、その役割を広げています。

皆さま、真夏を思わせる天候のなか、いかがお過ごしでしょうか。どうぞ熱中症や脱水に気を付けていただき、何かおかしいなと思ったら無理せず等潤病院を受診してください。

等潤病院3階の回復期リハビリテーション病棟は、平成16年に足立区初の回復期病棟として開設され、現在に至ります。当初は「回復期病棟とは何ぞや」という状況で患者様もなかなか集まりませんでした。現在では役割が理解され、都内の大病院からの紹介や院内からの紹介も増え、急性期から回復期まで一貫して診られる体制となっています。

回復期病棟とは、脳の病気や骨折、重篤な疾患の後に在宅復帰を目指すリハビリを行う病棟で、

対象や期間は国で定めています。そのなかで、いかに回復を引き出すかがわれわれの役割です。今回は入院患者の2割を占める、廃用症候群(入院や安静により体を使わず、筋力や生活動作が低下した状態)についてお話しします。

廃用症候群の患者様は大手術や重い肺炎の後、全身機能が低下した状態で転院されてきます。動けず話せず、天井を見て暮らす状態から、多職種が関わることで食事がとれ歩けるようになり、「ありがとう」と言って退院される姿を見るのは感無量です。チームプレイの極致です。一方で、身体機能だけでなく認知面の課題も重要です。術後、一時的に認知機能が落ちるせん妄が生じることは多く、適切な対応で改善するものの、

ご本人やご家族にとっては不安です。廃用によって座ることや立つことが難しくなったり、口から食事がとれずに経管栄養となる場合もあり、生活の基本となる機能が大きく低下することも少なくありません。そのため、機能回復だけでなく、患者様やご家族に状態や見通しを丁寧に伝える情報提供を重視するようになりました。

当院では在宅復帰率90%超を維持し、退院後も連携して支援を続けます。生活期リハビリを強化して回復速度を上げ、適切な時期に適切な場所へつなぐことがベストです。この病棟は、全職種で患者様の「元の生活に戻る」を支える場です。これからのより良い支援を提供すべく、現場でのやりがいを胸に、今日も頑張っています。

回復期は、
チーム医療
の極致とも
言える
やりがい
があります。

西 直人

社会医療法人慈生会
等潤病院副院長
老健イルアカーサ管理者

外科・消化器外科・
乳腺疾患・腹腔鏡外科

〈回復の先にある生活まで〉



本会の掲げる「トータルヘルスケア」を担う現場に
当て、医療・介護の《現在》について特集します。
F o c u s を

回復期の1日 ～生活を取り戻す準備の連続～

① 朝 「起きる」からリハビリは始まる
起床・離床・更衣をサポート
ベッドから起き上がる。その一つ一つが、
家での生活につながります。

② 午前 「できる」動きを増やしていく
歩行訓練や基本動作の確認
「できる」を少しずつ増やし、
自分で動ける範囲を広げていきます。

③ 昼 「食事」も大切なリハビリ
食事動作・嚥下・姿勢調整
食べることは、生活を支える大切な力のひとつです。

④ 午後 「その人らしい生活」を見据えて
応用動作（家事動作・外出想定など）
退院後の暮らしを思い描きながら、
一緒に動きを整えていきます。

⑤ 夕方 「その後」へつなぐ関わり
振り返り・多職種連携・家族への説明など
今日できたことを確認し、次の一步や退院後につなげます。



回復期リハビリテーション病棟のページは
こちらをご覧ください。

取り戻していききました。

回復期病棟での集中的なり
ハビリと、「その後」を見
据えた支援の開始

状態が安定した後、慈子さんは回復期リハビリテーション病棟へ移り、一日三時間の訓練を継続しました。朝、起きることからリハビリは始まり、食事や更衣、午後の応用動作まで、生活そのものを取り戻す準備が続きます。手足の動きは徐々に改

善し、身の回りの動作も増えていきましたが、生活に戻るためには、もう一つの壁がありました。何から手をつければよいかわからない、段取りが難しい、一度に複数のことができなくなる。こうした見た目には分かりにくい脳機能上の困難が、家事や仕事、家族との暮らしに大きく影響します。だからこそ回復期では、「どうすればできるよくなるか」を一緒に考えるように努めます。メモの活用や作業手順の整理といった代償手段

元の生活に戻れるのだから
か——その問いに、救急
から向き合い続ける

ある日突然、これまで当たり前だった日常が失われたら。脳梗塞を発症し、等潤病院に救急搬送された慈子さん（40代・主婦）は、右半身の麻痺と言葉の出にくさを抱えることになり、不安と混乱の中で入院生活を迎えました。「これからどうなるのか」という思いは、ご本人ばかりか、ご家族にとっても大きなものです。救急搬送先や、外来で最初に受診した病院の医療体制は、その後の回復過程に大きく影響します。

当院では、救急外来で迅速に重症度を判断し、必要な治療につなぐと同時に、退院後の生活まで見据えた関わりを開始します。急性期（病気のなり始め）の治療と、回復期リハビリテーション病棟がひと続きにあるからこそ、治療の段階から、その先の暮らしまでを見通して支えることができます。たとえ経過の中で再び治療や検査が必要になる場合でも、その後すぐに回復期へ戻ってリハビリを再開できることは、治療の質を高め、

患者様にとっても大きな安心につながります。

発症直後から始まるリハビリは「できた！」を支える

慈子さんも、急性期治療と並行して、入院翌日からリハビリを開始しました。ベッドから起き上がる、座る、立つ……そうした基本動作の一つ一つが、家での生活につながる大切な一歩です。当初は意識レベルの低下があり、呼びかけへの反応も乏しい状態でしたが、覚醒を促す関わりを重ねる中で、徐々に反応を見せるようになりました。しかし、段々と失語症や高次脳機能障害、重度の運動麻痺が明らかになると、現実を受け止めていく過程で、強い落ち込みや涙を見せることもありました。

このようなときは、私たちは機能訓練だけを進めるのではなく、まずは気持ちに寄り添うことを大切にしています。「今日はここまでできましたね」と、その日の小さな変化を丁寧に言葉にし、共有していく。焦らず関わり続ける中で信頼関係が生まれ、慈子さんは少しずつ前向きにリハビリに向き合う力を

を取り入れ、慈子さんは家事動作の再獲得を目指しました。

さらに、退院後の生活を見据え、ご自宅に直接伺って家屋調査を行い、生活動線や環境を確認し、必要な調整やご家族への介助指導を進めました。復職という目標に対しては、パソコン操作や電話対応など実際の業務を想定した訓練を実施し、勤務先に「できること」「配慮が必要なこと」を丁寧に伝える環境調整も行いました。結果、慈子さんは無事にパートでの職場復帰を果たすことができました。

等潤病院リハビリテーションの強みは「その後」まで

当院では、救急外来から始まる医療を、急性期・回復期、さらに老健や在宅支援へと切れ目なくつなぎます。病院を離れた後も、通所や訪問サービスへ早期につなげながら、生活の中で「できる」を維持し続ける支援を行います。医師、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、介護職など多職種が情報を共有し、それぞれの専門性を患者様の生活再建のために持ち寄るからこそのことです。

機能の回復は通過点であり、

回復期を探すところから始まった

受傷して入院した病院に回復期がなく、等潤に転院しました。かつて、家族が入院した時も治療後の行き先を探すのに苦労し、空くの待ったり、情報の少なさにも戸惑いました。当院の回復期を経験して、状態に応じて臨機応変にリハビリを続けられる大切さを実感しました。また、力強く支援する様子を患者の立場から知ることができたのも嬉しく、復職した今もさらにリハビリに励んでいます。

ある慈生会職員の
回復期闘病記

「その人らしい生活」を取り戻すことこそが、私たちの目標です。どんなきっかけであれ、私たちとの関わりは「これからの生活」につながります。

回復期まで見据えた医療機関の選択が、その後の生活の質を左右することも少なくありません。チーム等潤は、その一連の過程に責任を持ち、一人一人の「その後」まで支え続けます。

青は、ちぎる。

新聞を選び、ちぎり、重ねる。
遠くでは一枚の絵。
近づくと、景色が重なる。



ちぎるとやわらかい。



地域と共に生きる慈生みのトータルヘルスケア

社会医療法人 慈生会 わくわく倶楽部等潤（デイサービス）

わくわく倶楽部等潤では、日々の活動の中で作品づくりを行っています。

素材を選び、手を動かすことで、それぞれの発想や工夫が形になります。こうした積み重ねが、多様な表現として現れています。



03-5851-0320



症状・症例ガイド



息切れは「年齢のせい」ではないかもしれません

心不全 — 早期対応で生活は大きく変わる

階段で息切れがする、足がむくむ—それは心臓病のサインかもしれません。心不全は、早期に適切な治療と生活管理を行うことで再入院を防ぎ、生活の質を保つことができる病気です。

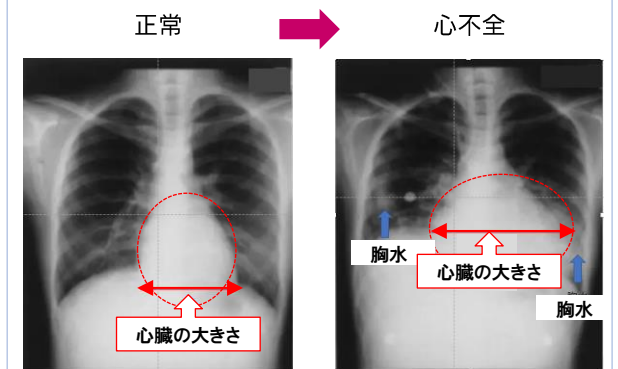
皆さま、心不全の患者様が増えているのをご存知ですか。生活習慣の欧米化や高齢化に伴い、高血圧や心筋梗塞などの「虚血性心疾患」や弁膜症（心臓の弁が正常に機能しなくなる病気の総称）が増加し、心不全の患者数は今後さらに増えるでしょう。

心臓は、血液を体中に循環させるポンプの役割を担います。この動きが弱くなると、体のあちこちに血液が溜まってしまい、息切れ、むくみ、だるさなどの症状が現れます。心不全は再発しやすく、国も再発予防のための医療提供体制を整備し、健康な生活習慣の継続を推奨しています。

ここで、当院に入院されたAさんの実例をあげ、心不全の発症、治療から回復期、再発予防までをご紹介します。

下の図は、Aさんの胸部エックス線画像です。肺は本来、空気で満たされたスポンジのような臓器ですが、心不全になると、肺に水分（胸水）が溜まり、酸素をうまく取り込めなくなってしまいます。そのせいで、Aさんは階段を上った時に息切れを感じるようになっていたのです。

図：心不全の胸部エックス線画像



心不全では、心臓が大きくなり、肺に水がたまっていることが分かります。

酸素の投与が必要で、食欲や日常生活動作の低下が見られたことから、Aさんは入院しました。食事や睡眠を見直し、リハビリと薬物治療を経て無事に退院しました。

しかし、心不全の患者様の6割は1年以内に再発するので、退院後も油断はできません。退院後は、自己管理の徹底と地域連携・病院の多職種の支援が欠かせません。特に塩分や水分の摂りすぎ、服薬忘れ、運動不足などは再発につながるため、毎日の体重測定や適度な運動、規則正しい生活が大切です。心不全の再発は、自分で努力しつつ、周囲がサポートすることで減らすことが可能です。

続きはWEBで！

執筆・監修



等潤病院
一般内科・循環器内科

伊藤 祐輔（いとう ゆうすけ）医師

診察日：月・火・水

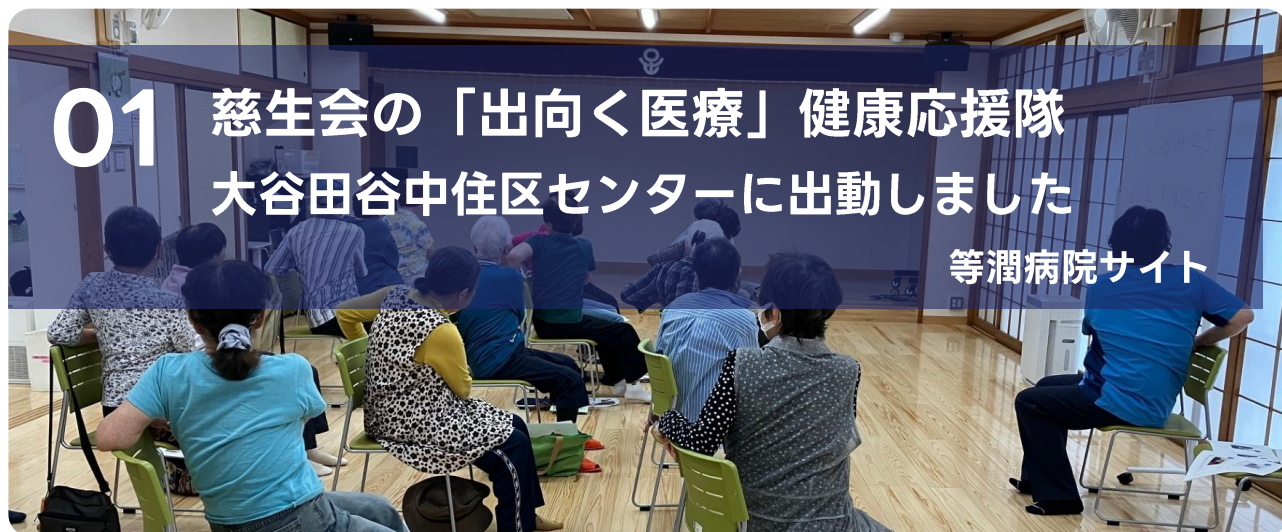


この段階での対応が重要です

適切な治療とリハビリを行うことで再入院を防ぐことができますが、対応が遅れると生活機能の低下や再発につながる可能性があります。

01 慈生会の「出向く医療」健康応援隊 大谷田谷中住区センターに出動しました

等潤病院サイト



「介護予防 ～傾向と対策・体操～」をテーマに、フレイル・サルコペニアを中心とした座学と予防体操を実践いたしました。今後も健康応援隊による体操指導などを通じて地域への啓発活動を続け、地域住民の皆さまの健康増進に貢献してまいります。

02 等潤病院サイト

等潤病院が「画像診断管理認証施設」に認定



03 等潤メディカルプラザサイト

訪問リハビリでは交通安全に取り組んでいます



04 老健イルアカーササイト

イルアカーサ農園だより「105歳で初めての田植え」



こんにちは、
医 事 課 で す ！

～患者様との接点を担う部署からのお手紙～

カルテコの登録はお済みですか？検査結果や画像をスマホやパソコンで確認でき、キャッシュレス後払いにも対応。登録は簡単です。今すぐご利用ください！

各記事の詳細は
ホームページで！

スマートフォンで
QRコードを読み取って
記事をご覧ください。



等潤病院



等潤メディカル
プラザ



健診センター
等潤



介護老人保健施設
イルアカーサ



看護部



総合リクルート

管理栄養士が教える！

健康食生活のススメ



監修：
診療技術部栄養科

●○● あじのカレームニエル ●○●

夏バテのだるさや不調は、冷たい飲食や冷房による胃腸機能の低下が原因の一つです。あじに豊富なたんぱく質は熱産生が高く、体の冷え対策にも役立ちます。スパイスを組み合わせた、夏におすすめの一品です。

●材料（2人分）●

あじ切り身・・・60g 2切れ
塩・・・・・・・・小さじ1／6
小麦粉・・・・・・・・大さじ1弱
カレーパウダー 小さじ1／3
バター・・・・・・・・小さじ1

注目の栄養素は…

たんぱく質

たんぱく質：12.2g
エネルギー：96kcal
（1人前あたり）

等潤病院 5月20日夕食でご提供しました



●作り方●

- ① あじはキッチンペーパーで水気をふき取った後、塩をふってなじませておく。
- ② バットで小麦粉とカレーパウダーを混ぜ合わせ、あじにまぶす。

- ③ フライパンにバターを熱し、弱めの中火で下味をつけたあじを皮目から焼く。きれいな焼き色が付いたら裏返し、中までふっくらと火が通るまで焼く。

Jiseikai

Doctors

File



慈生会の医師をご紹介します。プロフィール詳細は、等潤病院サイト「診療科・部門・センター」ページをご覧ください。



等潤病院 一般外科・乳腺外科
八巻 秀人（やまき ひでと）医師

診察日：月・木
プライマリ・ケア認定指導医、乳腺認定医 ほか

地域医療の現場で長年働いてきました。外科医師ではありますが、プライマリ・ケア医（総合診療医）としてのマインド（気持ち）を大切に診療にあたりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
趣味：ヴァイオリン（アマチュアオーケストラで活動中）



等潤病院 リウマチ科
川口 鎮司（かわぐち やすし）医師

診察日：水（第2・4週）
日本リウマチ学会（専門医、指導医）

関節リウマチの診療に特化してリウマチ科で診療を行っております。関節リウマチは今でも原因不明の難病ですが、治療方法の進化は素晴らしく、当院にて最新の治療を患者様にお届けしております。近隣の関節リウマチ患者さんの受診をお待ちしております。

私は、温暖な千葉県館山市で生まれ育ちました。リハビリという言葉を知ったのは高校生の頃です。中学で出会った老人ホームのおばさんと文通をしており、「歩けるものならもう一度、海を見たい」という言葉が強く印象に残りました。年をとってもやりたいことがあるのに動けないことが悲しく、進路を調べるなかで、歩行など動くことに特化し

高梨仁美のこれまで



休日の過ごし方は？
「野球観戦やGLAYのライブに行ってパワーをもらっています！」

イルアカーサには、利用者様の「楽しむ力」や「活力」を引き出す多様なアクティビティがあります。「おとなの学校」や園芸療法などを通して、生き生きと参加されたり新たな一面が引き出される瞬間にやりがいを感じ、この積み重ねが「家に帰る」支援につながると実感しています。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がひとつのチームとなり、一人でも多くの利用者様の「家に帰りたい」をかなえたいと思います。

慈生会の現場

JISEIKAI TOJUN PROFESSIONAL

ゲンバ
ピト

介護老人保健施設 イルアカーサ 入所リハビリグループ 主任 高梨 仁美

理学療法士は、運動療法・物理療法・日常生活動作など多面的なリハビリを実施し、患者の身体機能の回復を支援しながら、医師や多職種と連携し、生活の質の向上を支える大切な役割を担います。急性期から在宅期医療・介護にわたる、本会の「トータルヘルスケア」を支える、スペシャリストの素顔にせまります。

た理学療法士の存在を知り、「これだ！」と将来の目標を定めました。名古屋大学在学中は、研究室の先生方と地域の転倒予防教室に参加したり、施設での調査に同行したりと、地域リハビリに興味を持って勉強に励みました。卒業後は回復期リハビリテーション病院で勤務しましたが、「リハビリにはアフターサービスがない」と患者様に言われたことをきっかけに、介護保険分野のリハビリテーションに転職して15年になります。子どもの小学校入学を機

高梨仁美のこれから

に本会に入職し、等潤病院でキャリア初となる急性期のリハビリも経験し、視野を大きく広げました。介護老人保健施設は、回復期リハビリテーションの次の段階にあたる施設です。家に帰ることを目的にリハビリに取り組む場所であり、本会の老健「イルアカーサ」は、スペイン語で「家に帰ろう」という意味を持ち、その理念を施設名としています。入所して行うリハビリは、病院に比べると治療というより、生活や身の回りの動作に密接に関わります。トイレに行く、きれいな花を見に行くという生活の動作そのものもリハビリだ、と私は考えています。

等潤リハビリテーション体操

おうちでできる脳トレ体操 ～体と頭を同時に動かそう～



体操について知りたい方は、リハビリテーション部へお気軽にご相談ください。



等潤病院リハビリテーション部
ホームページはこちら

慈生会リハビリテーション部では、在宅復帰に向けて「2つの動作を同時に行うトレーニング」を取り入れています。家事をしながら家族と会話をするなど、日常生活の何気ない場面でも自然と脳を使っています。そこで、今回は手と足を同時に動かし、脳を活性化

化する体操をご紹介します。最後に、「口のうるおいを保つケア」をワンポイントでプラス！元気よく「グーチョコキパー」と声を出しながら行うのも良いですね。

体操監修：等潤病院リハビリテーション部
(文責：東嘉久、前田絢子、松田輝波)

足踏み+グー



- ①手をグーにします
- ②一方の手を胸の前に、もう一方の手は肘を伸ばします
- ③足踏みに合わせて手を交互に前に出します
- ④20回を目安にくり返します

ワンポイント
速くすると難易度が上がります！

足踏み+チョコキ



- ①手をチョコキにします
- ②一方の手を胸の前に、もう一方の手は肘を伸ばします
- ③足踏みに合わせて手を交互に前に出します
- ④20回を目安にくり返します

ワンポイント
ゆっくり行くとやりやすくなります

足踏み+パー



- ①手をパーにします
- ②一方の手を胸の前に、もう一方の手は肘を伸ばします
- ③足踏みに合わせて手を交互に前に出します
- ④20回を目安にくり返します

ワンポイント
リズムよく続けましょう

足踏み+グーチョコキパー（切り替え）

- ①足踏み1回ごとに、手の形を「グー」「チョコキ」「パー」と順番に変えます
- ②手を止めずに20回足踏みを行います
- ③慣れてきたら手足の動きを速くしていきます

健康ミニ情報 口のうるおいケア

唾液腺のマッサージで、発声がスムーズに。乾燥予防や飲み込みやすさ向上につながります。体操に慣れたら、「グーチョコキパー」と元気よく声を出して、さらにパワーアップしましょう！



- ① 耳の前やあごの下をやさしく押します
- ② 5～10回、円を描くように行います

読者アンケート

広報誌に関するご意見ご感想は是非こちらまでご連絡ください！
tojun-koho@jiseikai-phcc.jp
(右の2次元コードから送ることができます)



等潤病院副院長

ドクターにつしいー (外科・西直人先生)

エッセイ「よもやまばなし」
慈生会だより44号～49号連載
過去記事は、等潤病院ホームページで読めます！



編集後記

暑さが増し、夏の訪れを感じる季節となりました。今号は回復期リハビリテーションの取り組みなど、さまざまな記事を掲載しております。今後も分かりやすく親しみやすい広報誌を目指してまいります。(広報委員会委員長・診療技術部部長 松島孝昌)

暑さが続く季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。今号ではリハビリを中心に、健康維持に役立つ情報を分かりやすくご紹介しています。ご家族皆さままでぜひご覧ください。(看護部 下山聡子)

夏バテで疲れやすい時こそ、手作りのおかずが一品でもあると、少しほっとします。手軽に作れる今回のメニューは、塩分控えめのおかずとしてもおすすめです。ぜひ作ってみてくださいね。(栄養科 原田真美)

【編集部】進行(安岡・森)／取材・執筆(狩野・川鍋)／撮影(井上・畔上)／編集支援(今村・下山・菊地) | (広報委員会：胡桃沢・榊・竹之内・羽倉・原田)

外来受診表

受付時間 午前／ 8：45～12：00
午後／13：45～16：45
休診日 日曜・祝日

等潤病院サイトで
最新情報をチェック

休診・代診情報
診療科のご案内 など



ご予約・救急外来は
03-3850-8711
(病院代表)

患者サポートセンターは
03-3850-7518
(直通)



いつでも
どなたでも
どこからでも



社会医療法人慈生会等潤病院
公式キャラクター
どくとるまーしい

「いつでも どなたでも どこからでも」は、
*24時間365日
*保険診療のもと
*医療と介護を切れ目なくつなぐ
上記の医療・介護提供体制を表しています。

等潤病院 内科系		月	火	水	木	金	土
内科	午前	谷口 呼吸器内科 一般内科	伊藤(祐) 循環器内科 一般内科	谷口 呼吸器内科 一般内科	日下 緩和ケア 外科	久野木 消化器内科 一般内科	阿部 血液内科 一般内科
		伊藤(祐) 循環器内科 一般内科	山口(玲) 呼吸器内科 一般内科	久野木 消化器内科 一般内科	齊藤(翔) 呼吸器内科 一般内科	青木 循環器内科 一般内科	山口(里) 呼吸器内科 一般内科
		山口(玲) 呼吸器内科 一般内科	西島 呼吸器内科 一般内科	伊藤(祐) 循環器内科 一般内科	佐々木 循環器内科 一般内科	齋藤(宏) 糖尿病内科 一般内科	
		阿部 血液内科 一般内科		山口(玲) 呼吸器内科 一般内科	松岡 循環器内科 一般内科	刀裨 呼吸器内科 一般内科	
	午後	青木 循環器内科 一般内科	沖田 一般内科	青木 循環器内科 一般内科	小野 呼吸器内科 一般内科	三宅 呼吸器内科 一般内科	三宅 呼吸器内科 一般内科
		阿部 血液内科 一般内科	甲斐 循環器内科 一般内科	三宅 呼吸器内科 一般内科	佐々木 循環器内科 一般内科	齋藤(宏) 糖尿病内科 一般内科	阿部 血液内科 一般内科
		久金 呼吸器内科 一般内科	久保田 呼吸器内科 一般内科		松岡 循環器内科 一般内科		
			佐藤 腎臓内科 一般内科				
			杉山 神経内科				

等潤病院 外科系		月	火	水	木	金	土
外科	午前	西富	伊藤(雅) 小関	西渡邊	仁瓶	富王	北川
	午後	渡邊 八巻	小関 根本	石川 北川	仁瓶	延廣	交代制 (※1)
乳腺外科	午前	叶(健診)		叶	八巻	叶	
	午後	叶		叶(健診)		叶(健診)	
整形外科	午前	堀越	江面	大澤	中山	小川 樋口	
	午後	堀越	江面	大澤	小川	樋口	
脳神経外科	午前	徳植	石井	徳植	石井	石井	徳植
	午後		杉山	杉山	田村		

※1 交代制のため、担当は病院受付に直接お問い合わせください

等潤病院 その他診療科		月	火	水	木	金	土
泌尿器科	午前			安田			
	午後			安田		田中	安田(※3)
皮膚科	午前 午後	伊藤(聖)			伊藤(聖)		
リウマチ科	午後			川口(※2)			
放射線科	午前 午後	前嶋	前嶋	前嶋	前嶋	前嶋	交代制
内視鏡 センター	午前	久野木	平泉	石川 北川	久野木	小関 北川	富
	午後	小関	平泉	小関 北川	久野木	久野木 北川	

※2 第2・4週 / ※3 第3週

等潤メディカル プラザ病院 (※5)		月	火	水	木	金	土
緩和ケア センター等潤		患者サポートセンターにお問合せください					
健診センター 等潤	午前	川又 叶	川又 葛原	川又 服部	川又	柳澤	國本
	午後	川又	川又	川又 叶 服部 (※4)	川又	叶 柳澤	國本
腎センター 等潤	午前 午後	葛原	佐藤	葛原	伊藤(雅) 柳	葛原	伊藤(雅) 小松

※4 第2・4週 / ※5 外来受付は等潤病院で承ります

等潤メディケア 診療所		月	火	水	木	金	土
総合診療科 ※完全予約制	午前		宮崎			谷口	
訪問診療	午前		沖田 丸島	杉山		延廣	
	午後	日下	丸島	日下	杉山 犬飼	王	

注) 学会参加等により、休診・代診や一部変更の可能性がございます。最新情報はホームページをご確認ください。